

慈悲 正念寺 寺報

令和四年十月二十七日刊

報恩講のご案内

ようやく秋の気配が深まってきました。皆様におかれましては、お元気でお過ごしのことと存じます。コロナ禍三年目、専門家の第八波への危機感が報道され、まだ終わりが見通せません。また、新興宗教やカルト集団の問題は、伝統的な仏教徒や、誠実に仏の教えを広め護ってきたお同行さんにとっては大変やっかいな話であり、なぜ靈感商法にいと簡単に引つかかるのか、心のあり方を考えさせられます。そして、国際ニュースでは、ロシアがウクライナに軍事侵略して八ヶ月以上経ち、人間の愚かさと煩惱の深さに心が痛みます。この様なことに思いを巡らせると、親鸞聖人が「正信に帰る」と言われたのが心に響きますので、詳しくは報恩講の法話でお話しします。

報恩講は、真宗の開祖である親鸞聖人（1173～1262）が一月十六日満90歳で往生されたご命日をご縁に、そのご遺徳を偲び、報恩謝徳するおつとめで、真宗にとって最も大切な仏事です。コロナ禍を考慮し、今年も一日のみで行いますが、報恩講を通して感謝し、おかげさまとの心を持って生き抜き、生かされていることを育んでいきましょう。一人でも多くのご参詣をお待ちしております。

日時

11月19日（土）

午前10時～	ご都合のよい方にご参詣下さい。 マスク着用をお願いします。
午後1時30分～	

親年番・年番会のご案内

報恩講終了後に行いますのでご出席下さい。内容は、寺割・各講のお汁・本山の法要と宝物館新築ご寄附の件等です。なお来年、親年番は改選です。よろしく願います。

修正会（除夜の鐘）について

12月31日（土）午後11時50分頃から例年通り行います。